

第 15 回 マルチモダリティシンポジウム 参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

2017年5月27日(土)に広島市のJMSアステールプラザにおいて第15回 マルチモダリティシンポジウム(Versus)が開催されました。昨年もこのVersus開催に関する記事を書きましたが、自身がVersusの世話人であるのでご了承下さい。今回のVersusのテーマは「骨軟部」でCT、MRI、単純X撮影、超音波の演者の方には膝関節の内容を発表の中に入れて頂くこととして講演・ディスカッションが行われました。CTに関する演者は福岡整形外科病院の釘宮慎次郎氏で、整形領域に関しては呼吸による被写体の動きが少なく、造影剤を用いるCT-Angioのような検査でない場合には最新のCT装置でなくても検査が可能であると報告していました。また整形領域のCT撮影では一般撮影と同様に四肢全般でポジショニングが重要であり、検側をガントリーの中心にすること、更にタオルや様々な固定具を使用して患者さんの体位をニュートラルな状態にすることの工夫が重要であることも話されていました。膝関節に関してもやや屈曲した状態が良いようです(整形領域のCT撮影では常識なのではないでしょうか?)。またCTの検査目的は骨折の評価・手術での固定方向やスクリューの長さの決定など治療方針の決定や手術支援に最適なモダリティであると述べられており、参加者が整形領域におけるCTの有用性と検査目的が今回のVersusで再確認出来たのではないかと思います。また整形領域CTではVR画像やMPR画像作成が非常に重要であることも(MPRはほぼ全例なのでしょうね)お話しされていました。

釘宮氏のお話の中でCTへのローテーションは一般撮影やMRIでの業務を習得してから行うと言っておられました。普通ならCTの業務を習得してから?と思っていたのですが、彼曰く、一般撮影でポジショニング、MRI業務で解剖を理解することでCT画像の所見を評価する力量がつくと言っていました。ある意味ではCTでは見ることの難しい画像所見をMRIで勉強し、それをCTにフィードバック

クする方が良い検査ができるということだと解釈しています。

Versus の真骨頂はディカッションであり、昨年から **Web** を使った質問形式を導入したことで多くの質問が得られるようになりました。個々のモダリティ又は施設での新人教育について、小児の撮影の工夫など全体に関する質問や個々のモダリティに対する掘り込んだ質問など **Versus** らしいディスカッションが出来たのではないかと思います。私個人としては一般撮影のポジショニングでもの凄く盛り上がっており、一般撮影に関する奥深さを改めて診療放射線技師として感じた次第です。

Versus の後は楽しい情報交換会も準備されていました。3時間のしゃぶしゃぶ食べ放題・飲み放題！ 60名を超える参加者が席を変えながら懇親の場を楽しんでいました。情報交換会後も広島ご当地グルメを楽しむグループ、カラオケを楽しむグループ、ただお酒を飲みたいグループなどに分かれ各自広島の夜を満喫していたのではないかと思います。

来年の **Versus** は東京で開催します。内容は 9 年ぶりの心臓です。CT では **FFR-CT** の内容も盛り込むそうですし、循環器領域の画像診断領域では高名な放射線医の特別講演もあるそうです。興味のある方、来年参加されては如何でしょうか？



情報交換会での集合写真